

概 要 報 告

実施期日	7月29日(火)【午前】
部会名	小学校 音楽部会

テーマ 『 自信をもって音楽表現する子どもたちをめざして 』

提案概要

音楽の授業において「音楽は好きだが、間違えたらどうしよう。」という気持ちから存分に楽しみ、表現することができない児童が多くいる。そんな子どもたちのために、「間違いのない音楽・失敗のない音楽」をテーマに据え、高学年における音楽づくりの活動を実践した。

実践1 即興アレンジに挑戦しよう(5年)

5年生において、まず音楽づくりの基盤をつくっていった。まずはじめに、トーンチャイムを使って和音の響きを味わったり、長調と短調の違いを感じ取ったりする活動を行った。伴奏に使う和音＝コードを『コードモンスター』というクラスオリジナルのキャラクターに表し、トレーディングカードゲームを通して親しませた。その上で、音楽づくりの実践として劇団四季のミュージカル『ガンバの大冒険』の主題歌『行こうよ仲間たち』を即興でアレンジする活動を行った。

活動にはアレンジメモ(ワークシート)を用い、15分程度で伴奏の工夫や楽器表現の工夫による即興アレンジを行う。この活動で重点をおいた〔共通事項〕の内容は、音色・リズム・速度・強弱・音の重なり、そして音楽の縦と横の関係である。各グループの発表では、鉄琴やシンバルを使った『キラキラバージョン』、音の重なりを意識して工夫した『ハモリバージョン』など、子どもたち同士で相談したイメージに応じた表現方法の工夫が見られた。

実践2 自分たちの音楽を追求しよう ～作曲に挑戦～(6年)

6年生では学年を持ち上がり、5年生でつくった基盤を発展させながら音楽づくりの活動を行った。コードの学習は、子どもたちが「いいな。」と思う部分のコード進行を調べ、音楽づくりの際に使うことができるように『不思議』、『明るくハッピー』など名前をつけてストックしていく活動へと発展させていった。加えて旋律づくりの活動では、『山登りパターン』、『ジグザグパターン』など旋律の種類を分類し子どもたちに名付けさせた。これに沿って音楽作りに取り組むことで、めちゃくちゃな旋律にならずまとまりのあるものにすることができる。これらを学習したうえで、以下の授業を行った。

まず、ピカソの『恋人』という絵を見て、イメージをグループで話し合った。そのあと、各グループで絵のイメージに合ったショートソングをつくる活動を行った。この活動では〔共通事項〕の音色・リズム・速度・旋律・強弱・音の重なり・音階や調、音楽の縦と横の関係に重点を置いた。各グループの発表では、「女の人の顔のパーツが不思議。だから不思議系コードを使った。」など自分たちでイメージに合ったコードを考え、旋律を工夫し、楽器を選んで演奏することができた。

2年間を通じた授業の成果として、児童が活動の中で得た技能や知識を、次の活動に活かしていくことができたこと、お互いの音を聴きあい、相談しながら音楽づくりを行うことで関係づくりができたこと、表現の活動を通して共通事項を指導することができたことなどがあげられる。

課題として、音楽づくりの活動における、互いのグループの音を邪魔しない環境設定の難しさがあげられる。

質疑概要

質問1：ドラムサークルは、どんな投げかけで始まったか。

はじめは、自由に打たせたため騒音になってしまった。担任がバスドラムでベースを打ち、その上にとった自由ということ子どもたちが理解した。最終的にまん中にファシリテーターを置き、非言語の指示に従いながら演奏させる。これにより言葉を使わずに強弱や速度を学んでいく。

質問2：五線譜への指導はどのように行っているか。(グループ2より)

リズムアンサンブルの学習では○でリズムを記録していたこともあり、この活動ではあえて五線譜は用いなかったが、歌唱や器楽の授業では五線譜に触れる活動もしている。

質問3：共通事項は毎時間どのように絞っているのか。

共通事項は学習活動にあったものを絞って指導していくのがよい。

質問4：机や譜面台は使用しているのか。

音楽室に机・イスはないので、授業の際は教室にある段差に座らせる形をとっている。

研究協議概要

柱①音楽づくりにおける実践と共通事項の指導

音楽づくりで一番簡単なのは、リズムアンサンブルであるが、旋律づくりとなると難しく感じる先生が多かった。また、音楽づくりの活動は教科書教材を短期間で取り組むことが多く、提案のように継続した、そして体験的な取り組みは難しいと感じる。音楽づくりのベースであるコードやリズム(共通事項を含む)は、その場での指導に終わるのではなく、継続した指導で積み重ねていくことで成果がだせるのであろう。提案の授業は音楽だけでなく国語など教科の枠を超えており、担任ならではの幅広い指導を行うことができた。しかし限られた時間内に提案授業までのレベルに指導するのは難しい、特に音楽専科の立場では学級経営にかかわっていないので尚更であるとの意見もあがった。

共通事項の言葉は、教師が意図したとおりに子どもに伝えるのはとても難しいと感じている。たとえば鑑賞教材における発言が共通事項のイメージになかなかつながらないということもあるようだ。だから、提案のように理論ではなく、体感から入っていくことで共通事項を学べるのはよい手立てであり、子どもたちもとても楽しんでいたという意見が多く出た。対して、ワークシートに音楽的な要素がもっとあってもよく、読譜や記譜も扱ったほうがよいのではないかという意見もあった。また、日々の音楽の授業において、音楽づくりの際に違和感に対する気づきのない子への手立てはどうするかが課題にあげられた。

柱②音楽づくりにおける環境設定

環境づくりは、音楽室は狭く一人ひとりの音が聴こえないなどの難しさがあるため、空き教室などの活用や工夫が必要であるとの意見が多かった。近くの教室の先生と相談したり、学年で協力して指導したりできるとよいだろう。また、他の場所が使えない場合は打楽器にタオルをかけ音をおさえる、教室の端に散らばってスペースを確保する等の工夫があげられた。これに対し、いくつものグループが同じ空間で一緒に練習することで互いを意識し、他のグループの音を聴いてよいところを真似するなどの良さもあるという意見もあった。

また、音楽室の楽器についても議論がなされた。数に限りがあり、一つの楽器に人気が集まることも少なくないという。そんな時は、交代で使いながら順番が回ってくるまで手拍子をさせる、練習中に使う楽器を交換してもよいこととする、などの工夫をしていることも報告された。また、音楽室の机や椅子・譜面台の設置については学校により様々である。広いスペースを使いたい授業もあれば書く活動などがメインになる場合は机がほしい授業もあり、学校の実態、授業形態に合わせて環境設定を考えられている先生が多かった。

まとめ概要

音楽づくりの授業は、リズムまでは取り組みやすいが、旋律づくりとなると躊躇してしまうところがある。この点からも、今回の提案は参考になるものであった。コードモンスターなど児童の心をつかむ工夫、作曲メモ(ワークシート)など子どもの実態をふまえた手立てが素晴らしく、児童が話し合いながらよりよいものにしていく過程の見える提案であった。参加者は学校に持ち帰り、広めてほしいと思う。また、今回の提案における5年生からの2年間のよう、小学校6年間で系統的な指導についても学校で話題にするとよい。

提案は学級担任の強みを活かした音楽指導であったが、音楽づくりにおいては、担任でなくとも立場によって様々に工夫することができる。

共通事項に示されているのは、児童の日常生活にはない言葉であるから、教師が意識して使っていないと児童は使うことができない。しかし、ただ教え込むのではなく体感を通して学んでいくことができるようにしたい。